

大豆の播種作業がスタート

3品種を1,343^{ヘクタール}に作付け

本JA管内で5月24日から平成30年産大豆の播種作業が始まりました。「タンレイ」「きめさやか」「ミヤギシロメ」の3品種を1,343^{ヘクタール}に作付けする計画です。

5月25日、高倉地区で作業をした生産者は「播種後は除草剤を散布し、雑草の発生を防ぐ。今年も目標収量を確保し、良質な大豆を生産したい」と話していました。

本JAの担当職員は「今年も基本に忠実な管理を行い、例年以上の収量確保と良品質な大豆栽培を目指してほしい」と話します。

本JAは、県内でも有数の大豆産地で、平成30年度は100の集落営農組織や認定農業者、農事組合法人が大豆を栽培する計画です。



大豆の播種作業をする生産者

健全な育成を目指し

繁殖牛32頭を放牧



トラックから牛を降ろす生産者

本JAは5月9日、繁殖牛の健康と飼養管理の低コスト省力化のため、大崎市宮鳴子放牧場に32頭を放牧しました。放牧された牛は、11月ごろに農家が引き取る予定です。

放牧場には、大崎市各地から85頭が入牧。牛は体重測定などの健康状態を確認後、放牧地に放されました。

入牧に立ち会った生産者は「牛には山の傾斜で足腰を鍛え、栄養のある牧草を食べて丈夫な体を作ってもらいたい」と話していました。

本JAの担当職員は「放牧により、発育の良い子牛の生産が期待できる。また、放牧の期間中、牛舎の整備などに活用してほしい」と話していました。

小学生が田植え体験

大崎市立下伊場野小学校

大崎市立下伊場野小学校は5月11日、総合的な学習の環として田植え体験をしました。三本木にある4ヶの圃場へ「みやこがねもち」の苗を手植えし、9月下旬の収穫まで生育状況などを観察します。

講師は、圃場の所有者である、本JAの千葉嘉秀理事と農家の佐藤信蔵さんが務めました。同校の1年生から6年生の児童19人が体験し、講師の説明を聞きながら約1時間かけて丁寧に植えつけました。

千葉理事は「子どもたちは貴重な体験ができたと思う。今後も食育や地域貢献のためにも協力していく」と話していました。

田植えを終えた同校3年生の後藤零さんは「田植えをするのは3回目で、1年生のときよりも上手にできたと思う。稲刈りが楽しみ」と話していました。

同校では、20年以上前から活動が続けており、11月には収穫祭として餅つきをして、お世話になった地域の方々にご馳走をする計画です。



田植え体験をする児童